

令和元年度第1回米子市地方創生有識者会議

○日時

令和元年7月10日（水）午前10時から12時

○場所

米子市立図書館2階多目的研修室

○議題

- (1) まち・ひと・しごと創生基本方針2019について
- (2) 地方創生の取組の進捗について
- (3) 今後のスケジュールについて

○出席者

古賀敦朗座長、山根淳史副座長、赤澤学委員、入江到委員、岡村哲晶委員、齊木恭子委員、佐貫馨委員、澤田裕一委員、中西広則委員、森本雄一委員、瀨本修オブザーバー、徳田真吾オブザーバー

○欠席者

杉本大介委員、森田慎一委員、吉川浩委員、

○出席職員

副市長 伊澤勇人

総合政策部長 八幡泰治

総合政策課長 長谷川和秀

総合政策課まちづくり戦略室長 倉本樹

総合政策課係長 宮本朋子

都市創造課長 若林満弘

男女共同参画推進課長 河田純子

淀江振興課長 橋井雅巳

福祉保健部こども未来局長 湯澤智子

健康対策課長 清水宏幸

こども相談課長 松浦俊介

子育て支援課長 池口寿美子

長寿社会課課長補佐 足立文理

経済部経済戦略課長 雑賀英明

文化観光局長 岡雄一

農林水産振興局長兼農林課長 中久喜知也

商工課長 毛利公一

文化振興課長 下高瑞哉

観光課長 鵜籠博紀
教育委員会事務局長兼教育総務課長 松下強
学校教育課長 西村健吾
総務部財政課長 下関浩次

- 傍聴者：1人
- 報道関係：なし

※読みやすさ等のため、発言の趣旨を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理
しています。

○長谷川総合政策課長

それでは定刻になりましたので、ただ今から令和元年度第1回の米子市地方創生有識者会議を開催いたします。私は、総合政策課の八幡でございます。議事に入りますまで、本日の日程に従いまして、会議の進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

はじめに、この度委員に交代がございましたので、ご紹介をさせていただきます。まず、米子公共職業安定所より赤澤学様に新たにご就任いただいております。一言ご挨拶をお願いいたします。

○赤澤委員

いつもお世話になっております。米子公共職業安定所の赤澤と申します。この4月から米子のハローワークに参りました。いろいろ意見を伺いながら、雇用に関することとお話しできたらと思っております。よろしくお願いいたします。

○長谷川総合政策課長

次に、米子青年会議所より、新たに杉本大介様にご就任いただいておりますが、本日は所用によりご欠席でございます。

続きまして、日本政策金融公庫米子支店から森本雄一様にご就任いただいております。一言ごあいさつをお願いいたします。

○森本委員

日本政策金融公庫米子支店支店長の森本でございます。よろしくお願いいたします。この4月から支店長として就任しております。米子市自体初めてというところもありますので、新しい目線というか違う目線でいろいろとお話できればなと思っております。よろしくお願いいたします。

○長谷川総合政策課長

続きまして、米子商工会議所から山根淳史様にご就任いただいております。一言ごあいさつをお願いいたします。

○山根委員

米子商工会議所の専務を務めております、山根でございます。どうぞよろしくお願いいたします。会議所に勤めましてちょうど3年たったところでございます。元県職員でございます。脱・役人ということで頑張っているところでございます。よろしくお願いいたします。

○長谷川総合政策課長

その他の委員の皆様方におかれましては引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。なほ、本日所用によりまして森田委員、吉川委員が欠席とのこととございます。ご了承いただきますようお願いいたします。

続きまして、日程3副市長からごあいさつを申し上げます。

○伊澤副市長

本日は今年度第1回の地方創生有識者会議ということで、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。改めて申し上げるまでもございませんが、平成27年から始まりました第1期総合戦略の取組も、今年度が最終年度ということとあります。昨年度2回目のこの会議でもご説明いたしましたとおり、すでに国でもそうとありますが、第2期の総合戦略の策定に向けた取組が始まっておりますし、当市においてもその検討に着手しているところとあります。当然、この4年間、5年目の取組をしっかりと検証していくことが大事にはなりますが、それを踏まえてこれから先、来年以降のさらに5年間をどうしていくのかということをお考え始めるといふことで、そのためにこれまでの取組の総括といふことに力点を移していただきたい、このようにお考えているところとあります。ちなみにこれもすでにご説明したところもございますが、米子市においてはその取組をより実効性を高めていく、あるいはより柱を明らかにしていくという意味から、市の総合計画の策定を1年前倒しにいたしまして、この総合戦略と重なるところが相当ございますので、これを一体化して作りたくところとあります。実は二日前に総合計画の策定の会議を開かせていただいたところで、本日ご出席の委員の皆様の中にも重なる委員さんがいらっしゃいます。そこから分かるとおりに、一心同体といひましようか表裏の関係があるということだと思ひておひます。本日は、このような形で開催させていただきますが、後ほど事務局の方から説明いたしますとおりに、2回目以降については従来のやり方を柔軟に変えて、合同で開催させていただくといふようなことも含めて、より一体的で実効的な議論、そして当然のことながらそれを実際のまちづくりや地域振興に活かしていく、こういった過程で策定していきたいとおひておひますので、委員の皆様方にはこれまで以上にそれぞれのご分野、あるいはお一人お一人のお考えをご披露いただきまして、米子の元気づくりにお力をいただきますようお願いしたいと思ひておひます。どうかよろしくお願ひいたします。

○長谷川総合政策課長

続きまして、古賀座長からごあいさつをお願いいたします。

○古賀座長

またこの暑い夏がやってきたとともにこの会が始まるということ、皆さんお元気でしようか。今年も夏が熱くなるのか涼しいのか分からないところですが、きっと米子は米子東高が熱くしてくれるのではないかと期待して、今週末に開幕するということと楽しみにしているところとあります。この米子市地方創生有識者会議も4年目を迎えて皆様と色々な議論をこれまで進めてまいりました。この地方創生の戦略につきましても、最終年度を迎えるということとあります。これまでの活動を総括しながら次期戦略策定に皆様もご意見、お力添

えをいただきたいと思っていますところです。米子市にお仕事として来られている方、あるいはお住まいの方、多々いらっしゃるかと思います。お立場とそれからお立場を越えて、米子市をいかに良くするかという視点でご意見を多数いただければと思っていますので、今日はどうぞよろしくお願い致します。

今日は国の方からの指針といいますか、この地方創生に関する方針が発出されているということも踏まえて、これまでの活動の報告があるかと思いますので、そのあたりを総括しながら、ぜひご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○長谷川総合政策課長

ありがとうございます。続きまして日程5「副座長互選」でございます。このたび田嶋委員が退任されました関係で副座長が空席となっております。副座長につきましては皆さんの互選で選んでいただきたいと思っていますけれども、古賀座長、こういった選び方がよろしいでしょうか。

○古賀座長

ご提案なんですけれども、前回まで但馬さんにお勤めいただきました。今後も、引き続き米子商工会議所からお越しいただいております山根さんにぜひ勤めていただければという風に考えておりますが皆さんいかがでしょうか。

(拍手)

それでは、山根さんよろしくお願いします。

○長谷川総合政策課長

そうしますと、山根副座長から一言ごあいさつをいただけますでしょうか。

○山根副座長

失礼いたします。ただいま副座長ということでご選任いただきました会議所の山根でございます。先ほどもプロフィールを言いましたけども、官が分かる専、民が分かる専というようなご期待で副座長という大役を仰せつかったのかなと思いますけども、なにぶんなかなか脳みそも固くなっております。皆様方の本当にいろんなお知恵、ご意見をいただきながら座長さんをフォローして、いい戦略づくりに微力ながら頑張れたらなと思いますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

○長谷川総合政策課長

ありがとうございます。そういたしますと日程6「議事」でございますけれども、ここからは進行を古賀座長にお願いしたいと思います。

○古賀座長

皆さん、お手元に本日配布資料とそれから郵送で送られた資料があります。そちらを照らし合わせながら進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。日程に従いまして議事の1「まち・ひと・しごと創生基本方針2019について」ということで事務局の方から説明をお願いします。

○八幡総合政策部長 当日資料1～3について説明

(説明要旨)

- ・12月に国の第2期「総合戦略」が策定され、これに基づいて地方版総合戦略を策定することになる。
- ・今年度の地方創生推進交付金の国家予算はで1千億円、まち・ひと・しごと創生事業費1兆円、次年度以降も同程度と推定し、この獲得に向けて計画を作っていく。そのためある程度具体的な業務についてもご議論いただく必要がある。
- ・次期総合戦略について、異本的には第1期の4つの基本目標を継承。
- ・第2期以降の新たな視点（関係人口の創出拡大、企業版ふるさと納税の拡充、民間との協働、共生社会の確立、など）。
- ・2020年度における各分野の主要な取組（企業誘致⇒地元の中小企業の生産性向上と人材不足の解消へ、など）。

○古賀座長

ありがとうございました。今の「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」についての説明でしたが、委員のみなさまから何かコメントとか質問はありますでしょうか。

○佐貫委員

「地方にしごとをつくり安心して働けるようにする」という部分について、戦術的に変えていきましようということですが、有効求人倍率が米子地区は特に高く2.0前後と聞いております。ただ一方で離職率というのが非常に高くなっています。特に高校卒業生が3年間で4割程度、大卒についても3年間で3割程度と、いろいろ言われていますので、そういった意味から言えば、できれば社会に出る学生の方の社会人教育、辞める理由はいろいろあると思いますが、ただ社会人教育というのをきちんとしていかなければ、なかなかそこら辺の離職を含めて解消しない。その一方で経営者教育、これは行政の仕事かは別にして逆の立場の経営者の方の教育というのを、今の若い人は多様化してますので、そういった意味を含めて、経営者の方も合わせて教授といったことも必要ではないかなと私は思います。

○八幡総合政策部長

若者の離職率の取組については、職安の所長さんがいらっしゃっておりますので、よろしければ直接お話しいただいた方がよろしいかと思ます。

○赤澤委員

そうしますと直近の求人倍率なのですが、私ども米子のハローワークの管内の有効求人倍率が5月時点で1.89倍という数字でございます。この数字ですが、バブル期で一番高い時が1.86倍でしたので、その倍率を上回っている状況でございます。平成25年10月から68か月連続で1倍を超えているという状況でございます。当然これは、全国また鳥取県の方の求人倍率も、全国は1.62倍、鳥取県は1.80倍ということですので非常に高いわけですが、その中でもこの地域はもう少し上をいっているという状況でございます。先ほど佐貫委員さんの方からお話がありました、若い方、新規の学校卒業者の離職の状況なんですけれども、こちらが直近で27年の3月卒が3年経った時点でどれくらい辞めているのかという数字でございますが、高校卒業者の場合が39.3%離職をしている。短大等を含めた大学卒が31.8%と、3割強が離職しているという状況でございます。この早期離職の問題といいますのは、私どもの方でも非常に重要視しておりまして、県教委さんとも一緒になって、鳥取県さんとも一緒になって様々な取組をしているところでして、まず地元の企業を知っていただくということが非常に大切なんだろうということで、いろいろ企業説明会的なことを実施したり、定着という問題で企業さんの労務管理の方を集めたセミナーを行ったりとか、いろいろな取組をしているところですが、一時の離職率よりも若干下がってきている傾向でございます。

○八幡総合政策部長

ありがとうございます。いま佐貫委員さんからご意見がありましたけれど、地方創生の取組といいますのは、当然私どもも戦略は作るんですが、鳥取県さんも同じように地方創生の取組というのを作られまして、今回、鳥取県さんと一緒になった取組をとということで、それぞれ国の基本方針に基づいた事業の調整について早急にやりましょうという話をさせていただいたところですし、この場には濱本さんがコンシェルジュとしてご参加いただいておりますので、これにつきましては貴重なご意見として、鳥取県さんと一緒になった取組をしてまいりたいと思っております。

○濱本オブザーバー

西部総合事務所地域振興局の濱本です。今お話がありました離職率の件ですけれども、私も企業訪問する機会がありまして、よくお話を聞いてみると、企業をよく知っていただくために、就職のときに企業の方と経営者の方が学生さん、それから家族の方ともお話しする企業さんもおられたりしまして、やはり自分がこれから勤めていく企業がどんなところかを知っておくというのが大事な、という経営者の方のお話も聞いたことがあります。いま八幡部長さんからありましたように、鳥取県でももう少し先になると思いますが総合戦略を作ります。米子市さんと一緒になってやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○古賀座長

離職者の問題についてはかなり難しい問題かと思えます。企業を知るということですが、どこまで知ったらこれが改善されるのかが見えないところだと思うんですが、一方で企業

を輝かせるという側面もあるのではないかと思います。例えば、米子市とか何らかの形で企業にスポットライトを当てることができないか、何らかの形で企業が頑張っている姿を表彰するとか、何かそういう形で企業が輝く存在になってくると、またそこに勤める職員のモチベーションも変わってくるのかなというようなことも考えるんですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○八幡総合政策部長

それにつきましては、本市におきましても経済部を中心にそれこそ米子商工会議所さんのお力を借りながら、様々な取組をさせていただいているわけですが、今回思いますのは、もう少し県・市だけじゃなくて民間の方と一緒にあってオール米子、オール鳥取という形でこの問題について対応していく姿勢が必要なんだろうと思っております。具体的には経済部でしていくことになると思えますけど、そういう一つの連帯意識といいますか、そういうことがないと地方創生の推進はなかなか難しいのかなと思っておりますので是非皆様方にはご協力をお願いしたいと考えております。

○中西委員

今、離職率の話で、初めて伺ったんですけど3割とか4割に近い状況ということで、この主な原因というのはただ勤める前に企業を知らなかったということなのか、その辺の根本的なところについて、もし分かれば教えてもらいたいと思うんですけども。

○赤澤委員

やはり一番多いのは人間関係ということで聞いてます。あとは仕事内容が自分のイメージしていたものと違っていたという、この二つがだいたい高い理由になっています。

○古賀座長

「人間関係」なかなか難しいテーマで、もしかすると私たち大学の方の使命かもしれませんが、コミュニケーション力をつけるということはとても大事なと思いますし、あとは人間関係がこじれてもそれを解消する、そういう能力も必要ですね。そのあたりは大学としてもしっかり考えていきたいと思っています。離職についてはすごく大きなテーマで、米子市さんのお考えのとおり「オール鳥取」で考えるべき事項でもあるかなと思います。佐貫さんのご意見の中で、経営者の教育も必要なんじゃないかというご意見がありました。経営者としての指導力ですとかあるいはまさにコミュニケーション力かもしれません。そういうところについての指導というところについては何か米子市さんのお考えはありますでしょうか。

○八幡総合政策部長

私どもの認識としましては、経営者の皆さんにとって離職率、離職の問題は逆に私どもが考える以上に会社の存続に関わる重大なことだと思いますので、その意識というのはかなり高いものがあるのではないかと考えております。やはり離職の原因として「働き方

というのが、ちょうど私も息子たちの年代が働く頃なんですけど、いろいろ話を聞いてみますと、昔は一つのところで「ここでずっと」というような感じだったのが、意外と結構柔軟にキャリアアップしていくみたいな感じの働き方で、そのあたりもあるのかなと思っております。経営者の視点ということであれば、ぜひ山根専務の方からいろいろとお話を逆に聞かせていただけたらと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○古賀座長

社会人教育というのはなかなか難しいところではありますが、山根さんから何かありますでしょうか。

○山根副座長

「これの原因は何か。そしてその解決法は何か。一言で」と言っても、これは今の地域経済、日本社会のトータルの話だと私は思っております。私もちょこちょこ会社の社長さん方から「いやあ、困った」という話は聞くんです。それにはいろんな要因がありますが、よくおっしゃるのは賃金格差がについて、本当はもっと出してあげたいんだけど、出せないものは出せない。すると、今は情報が学生もあるいは就職してからでもすぐ取れますから、例えばの話ですが、同じ建設業者でもA社、B社、C社があるとA社に仮に就職しても、同期周りがB社・C社に入ったら、福利厚生状況はどうだとか賃金はどうだとか言った情報がすぐに広まる。そうすると、どこの会社も人手が欲しいものですから、すぐに「うちの会社に来ない？」という話になって、すぐトラバユするというクレームを聞きます。それから先ほどありましたけども、子ども自体の忍耐力、働くということに対する価値というものが、私付近の年代とは変わってきている。私どもの頃はよく、多少あれでも我慢しなさいってことで、薄々そんなものだ、およそ自分の中の働くという価値観でもそういうことがあったんですけど、どうもそこもあまりないということ。これは家庭教育や学校教育の話じゃなくて、日本が情報化社会になって成熟化して、労働力が流動的になってきてというような様々な要因があるのかなと思います。私もよく分析しないんですけど、そうなのかなとしか言いようがないんですけど、子どもさんにいろんな要素があって労働人口が流動化しています。

まずその前段に、採用したくても応募がないという話もたくさんあります。地元の高校生すら見向きもしてくれなくなると、昨今だいたい企業さんがおっしゃいます。実は恥ずかしい話ですけど、当米子商工会議所も来春新卒をぜひ採りたいということで、今年は気合を入れて日本海新聞さんや県のふるさと機構さんとかの出展ブースに行って、学生さんに直に向き合って、ぜひ会議所に来てくださいと言ったんですけど、具体の数字を言うのは恥ずかしいので言いませんけれど、ダメでした。これは戦略を変えなくちゃいけないなということで、日本の企業さんが新卒採用でも通年採用っていうところにシフトしつつあるということがございますが、それを肌身で感じているところでございます。

いろんな要素があって何をどうしたらいいかっていうのはなかなか難しいですし、県、市、会議所として何をやるっていうのもなかなか難しい施策になると思いますが、多面的な総合力でやっていくしかないと思います。ただそうは言っても特色のある事が

必要だと私は思っています、私の中ではやはり子どもの頃から地元の、地域に対する愛着教育ということをしっかりやっていくっていうのが、将来を見据えた大事なことだと思います。合わせて企業も育てていく。これは当然のことです。受け皿となる企業も育てていかないと、就職したくても企業がない、なんていう話になりますので。もう一方で、これから地域を支えてくれる子どもたちの地域へのふるさと教育をしっかりやっていくことが、すぐには効果は出ませんが大事なことだだと思います。先ほどそういう意味で、県教委とも一緒になってとありましたけれど、そういうことも基盤づくりとして大事なと思います。ちょっと手前味噌になりますが、当会議所は数年前から、公庫さんのお力添えなどをいただきながら、高校生、小中学生に対して創業セミナーを試験的にやってみました。結構な人気で20~30人の定員なんですけどほぼ満杯になります。小学生がビジネスが分かるわけがないんですけども、ビジネスを通じて働くことは面白い事だよとか、地域を題材にした商品はこんなのでできるんですよと、案外子どもたち、目を輝かせて語ります。やっぱりそういう体験で、働くということを意識させる、特に若い時から、子どもたちに大事なと本当に実感しております。そういう意味では米子あるいは西部圏域に誇れる資源を、米子城もあるでしょうし、大山もあるでしょうし。こういったふるさと教育っていうのも大事だろうと私は思います。ゆくゆく大人になってから大学はやっぱり都会に行くでしょう。ただ都会に行って、地域に愛着があるなしでは職業の選択肢がずいぶん変わると思います。やっぱり生まれ育った米子に帰って、多少給料安いけど働こうかな、暮らしやすいし住みやすいしな、っていう意識のあるなしが大きな分かれ目になってくると思っていますところでございます。

とりとめのない話ですが、そういう意味でキラリと光る施策を何か考える必要もありますけど、先ほどの課題はトータルな、大きな大きな皆で話し合ったことなので、一概にこれをしたらこれが改善するっていうのは難しいと思います。市当局、会議所もそうですが、先ほどのセミナーなんかも、会議所も一生懸命働き方改革等々でやってはいるんですけど、今のこういう話でございます。そういうことを地道にやっていく必要があるかなと思っております。

○古賀座長

山根さんありがとうございました。そういう意味では様々な課題があると思えました。

子どもからの教育が大事だというご意見がありました。これに関しまして齊木さんいかがでしょうか。

○齊木委員

幼児教育という狭い世界の中で、うちの学生が就職というと保育所・幼稚園というまた狭い中での話しかさせていただけなのですが、今社会人教育とか経営者教育というような話も出ていたんですが、今学生がすごく多様化しています。それはメンタルの部分であったりとか、背景に背負っているこれまでの生活環境ですとか、いろんな形で学生が多様化してきているっていうことも大きくあります。そういった多様化してきている学生たちがうちの幼児教育保育学科でいえば、いわゆる保育者になりたいということで入って

きていますし、それから本学でも7月3日に合同企業説明会ということで50社ほど、鳥取県が35社、島根が15社、幼稚園・保育園の法人関係の方たちにおいでいただいて、1、2年生がそれぞれの企業に3、4社回って説明を聞いたりということで、一つの就職活動になっていて、職場を知る機会として、そこで職場のお話を聞かせてもらったりして、そういった形でここに行きたいということで行くんですが、やはり雇用環境と言うんでしょうか、次の「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」というところに繋がっていくと思うんですが、希望を持っていても、さっきの雇用環境じゃないですが時間的にも経済面でも学生たちが聞いてた話とちょっと違う、思っていたのとちょっと違うというような形で、離職率の調査まではしていませんのでそこまではお話しできないんですが、本学でも社会人教育ということでコミュニケーション力とさっき古賀座長がおっしゃいましたけれども、そういうこととお話をしているんですが、相手のあつてのことでそちらの方も、就職して後で帰ってきて話を聞くと、なかなかそこがうまくいかないというのが現状ではあります。ということをお伝えして、ぜひ保育士の環境をよくしていただけると。いま保育士不足ということもありますけれども、一旦離れてしまうとなかなか再就職ということは難しいようです。セミナーを本学も引き受けたりしますが、その希望者もすごく少ないです。

○古賀座長

非常に示唆に富むお話をありがとうございます。まず子どもが多様化しているということで、そういう意味ではもしかすると企業の経営者は子どもの状況をもっと直視する必要があるのかな、実際雇用しようとする学生たちのことを知るといふ姿勢も大事なのかなという風に思いました。それからもう一つ、やはり結婚出産子育てを経て再就職する難しさというものもあるのかなとも思います。このあたりについて何らかの制度化というのが、市の手厚い制度が必要なのかなという風にも思ったのですが、何かそのあたりについて米子市さんの方でありましたら教えていただけることはありますか。

○八幡総合政策部長

保育環境の件についてだけお話させていただきたいと思いますが、私どもといたしましても、保育所を実際に市で運営しておりますので、その中でやはり保育者の確保というのは非常に重要な課題だということを認識しておりまして、国の方に対して基本的な保育所の仕組みや賃金を含めた待遇の改善について声を上げていく必要があるのかなと思います。

○古賀座長

鳥取大学でも、いま子どもたちの教育の改革に取り組んでおりまして、私ども医学部附属病院に植木教授という者がおりまして、彼がいま知財創造教育、発明教育を進めております。いま附属小学校で試験的に実施しているんですが、発想力豊かな子どもたちを伸ばすという活動です。これをぜひ米子市の中で、様々な小学校・中学校で実際に実施して、この鳥取・米子に子どもたち独自の輝きを持たせる、そういう活動を進めていきたいと考えていまして、そういった中からもしかすると子どもたちが自ら自発的に会社を立

ち上げたりあるいは会社の中で活躍したりということも夢見ておりますので、確かに山根さんがおっしゃる通り複雑な問題が絡んでいますので、一朝一夕に行く問題じゃないと思うんですが、結構それぞれの地域が努力をされているという状況があります。徳島も実際関係人口の増加に向けて様々な取組をしているのを一部知っております。古民家を使ってリノベーションをして、そこに企業複数入れて、インキュベーションして、そこに東京からやってきて仕事をするという環境を整備して、地域の方々とのコミュニケーションを持つ機会を持っているということで、非常に面白い取組だと思って見ております。もし米子市もそういった、東京から見ても行ってみたいと思わせるような何らかの活動ができるといいのかなという風に思います。

○岡村委員

関係人口に直接的に関係するかどうか分かりませんが、「地域みらい留学」という制度あって、東京・大阪・福岡・名古屋といった都会の中学生に対して、地域の高校がプレゼンをして、こっちの高校においでよというような制度があるんですね。鳥取県もそういった取組があるんでしょうけれど、私の認識不足かもしれませんが、あまり米子市の高校がそこにエントリーしているのを見たことがない。島根県側はエントリーして、プレゼンをしに行ってるような印象を受けますけれども。そういった取組ってというのは今後力を入れていければ、どれだけの効果があって、どれだけの高校生が増えていくか分かりませんが、都会の方がこちらで就学して、地域文化を体験したり、農林水産に関する体験をしたり、そういった教育を受けて地元に残っていただいてもいいですし、都会に帰られて、関係人口の中の一人になっていただくっていうのもありだと思うんですが、「地域みらい留学」という仕組みをあまり知らない人が多いんじゃないかなと思ったりしております。そういった取組についてどう考えておられるのかなと思っておりますがいかがでしょうか。

○古賀座長

私も初めて聞きました。「地域みらい留学」というものがあるんですね。その辺りについて米子市さん情報をお持ちでしたら教えていただきたいと思うんですが。

○八幡総合政策部長

実際にそういった事業に該当するか確認しておりませんが、この辺で有名なのは隠岐の海士町ですね。そこは高校がなくなるということで、どんどん都会から高校生を呼んできておられる。それと島根県さんの方で、広島県境の高校とかで、きっかけとしては高校がなくなるっていう状況の時に力を入れていらっしゃるという話を聞いたことがあります。副市長から詳しくお話しさせていただきます。

○伊澤副市長

この辺で言いますと、日野高校さんだったり、東部の岩見高校さんなどいずれも少子化あるいは地域人口の減少に伴って、存立が危ういということから積極的に外部から留学者

を全国から募っております。これは色々軸足があって、スポーツや様々な教育活動に軸足を置いておられるところがあります。いずれも寮とか民泊といったものも組み合わせながら、住む所も用意して高校生の受け入れをやっておられます。これは極端な例でありまして、米子市ではそういった環境がないものですから、積極的にこれをやっているという状況にないというところだと思っております。

○古賀座長

隠岐の取組は私も興味深く見ております。まさに子どもをそこに入れたいために、引っ越す方も出ているというようなことで、そういう意味では参考になる事例ではないかなという風に思いました。

○山根委員

関係人口という話でちょっと考えていることをご披露したいと思います。日本中で取り組んでいますので、大なり小なり取り合いで、人口が増えない限りなかなか難しいと思います。そこでやはり米子の特性を考えたら、インバウンドと最終的に思うようになりました。米子の強みは、鬼太郎空港があって、香港・韓国それから台湾、DBSクルーズでたまに欧米人も来られます。何とかこの観光客、ビジネスで来られる方はあまりいないと思いますけども、そういった方を当地のファンになっていただく、これが関係人口になって、瓢箪から駒のようなことになる可能性があるんじゃないかなと。特に香港の皆さん方は、確か調査では大変お金持ち、ハイソサエティという方々が多数来ておられます。何とかここを関係人口という括りの中でファンになっていただく取組を強化する必要があるのかなという風に思っておるところでございます。

もう一つはアジアユースサッカーというのを数年前からやっておられまして、香港・韓国、それから地元のチームでサッカーの試合をやっておられます。こういったのも非常に良いきっかけでありまして、子ども達に単にサッカーで勝ってよかったねじゃなくて、いろんな思い出を作って、ファンになるほどの喜びを、特別なあしらいをしてでも、海外の皆さんにファンになっていただく取組というのが大事になってくるんじゃないかなと思っておるところでございます。やはり当会議所も、一昨年になりますか、大型クルーズ客船の皆さんを試験的に米子城あるいは加茂川沿いに向かってバスを仕立てて、無料だった事もありますけれども来ていただきまして、非常に人気、素晴らしい、ワンダフルというような話であります。これは、欧米人の皆さんが景観とかお地蔵さんを見て特にそこに感激するのではなくて、何に感激するかというと、地域の皆さんとのふれあいだと思います。要はアテンドして、こと細やかに歴史文化を説明する当地の関係者の「人の温かさ」、ここに感激されているんだと思います。そういう意味で、そういう地域の市民とのふれあい、日本文化・日本人を感じていただくようなことをもう少し意識的にやって、ファンづくりをしていくことが大事かなと思っておるところでございます。

○古賀座長

インバウンドについては米子市さんも多数取り組んでおられまして、特に皆生温泉の周りでインバウンドに関する活動をなさっておられると思うんです。その地域の人々とのふれあいというのは、私も実際米子に来て、米子を好きになったのが、ただ単にこの土地が気に入ったわけではなく、人がやはり非常に暖かい、そういったところだというふうに思っております。もし、これがなかなか進んでいない事情があるのであれば、もしかすると言語の壁とか様々な文化の壁といったところがあるかと思いますが、今インバウンドに関しての取組及び課題について、米子市さんの方で何かありますでしょうか。

○八幡総合政策部長

インバウンドについては後ほど総括のところでも述べさせていただきたいと思っております。

○古賀座長

わかりました。ひとつ確認なんですけれども、この基本方針をもとに米子市さんの戦略を考えられると思うんですが、基本的に全てを網羅するつもりでいらっしゃるのでしょうか。それともこの中からピックアップするそういった考えでしょうか。

○八幡総合政策部長

この基本方針は日本全国、国とか県とか市とかそういったところの取組が書いてあるわけですし、本市で何をやるかということも鳥取県さんと十分な調整をして、総括を踏まえたうえで、先ほどの山根委員さんの弁を借りれば「米子らしい、キラリと光る」ものができればと思っております。その辺りを委員の皆様方とお話しさせていただきたいと思っております。

○古賀座長

ここからエッセンスをピックアップして、米子市なりの案に仕立てていくということですね。そういった意味でこの6つの項目の中で特に米子市が優れている点、また反対に米子市ができていない、ここだけはクリアしておかなければいけないという部分がありましたらそちらについてのご意見を伺いたいと思っております。

○八幡総合政策部長

できてない部分については総括でお話をさせていただきたいと思っております。

○古賀座長

実は、総合計画審議会の中でコメントがありましたのが、ITが不足しているのではないかというお話がありました。特にSociety 5.0といったところが今回出てきておりますが、ITに関する何らかの強化といった動きも必要になるかと思うんですが、米子市さんの方で何かお考えはありますでしょうか。

○八幡総合政策部長

議事の「地方創生の取組の進捗について」を先に説明させていただいてから、トータルでご意見をいただければありがたいと思うのですが。

○古賀座長

それでは議題の2に移りたいと思います。それでは地方創生の取組の進捗ということで、この総括についてはまだ取りまとめの最中ということで、本日のご意見も踏まえてしっかりと総括を作っていくという考えだということです。そのあたりを踏まえまして事務局の方から説明をお願いします。

○八幡総合政策部長 資料1・2について説明

(説明要旨)

- ・米子市の人口は結果的に目標をクリア。ただし自然増・社会増によるものではなく、当初のH25国勢調査ベースの、H30国勢調査結果で上ブレしたことによるもの。
- ・合計特殊出生率は最新で1.74(2017年)。目標に届いていないが、全国のなかでは良い数字となっている。
- ・社会増減については県内他市町村及び島根県から転入があるが、それが東京・大阪に転出しているのが実態。
- ・総合戦略4つの分野ごとの数値目標について、
 - ①雇用創出数は目標を下回って推移。
 - ②県外からの移住者数について途中で目標を上方修正したものの、社会増減で目標値に至っていない。皆生温泉のインバウンドは当初の目標値を上回る推移。インバウンドに対する施策が重要な課題。
 - ③子供を産む女性の数が減っているため、出生数は今後確実に減っていく見通し。総合的な子育て支援が必要。

私どもがいま考えておりますのが、初めての地方創生の取組として、委員の皆様方からご意見をいただきました。地方創生のあらゆる施策を取り上げた中身となっておりますが、今となっては選択と集中というのがこれから必要になってくると考えております。それからもう一つは、KPIの設定の仕方でございます。人口を様々な施策によって上げていくというのは難しいだろうというのが、この5年間取り組んできた率直な感想として、必要な施策について適切なKPIを設定して取り組んでいくことが大事であると考えております。結果、人口増については総合的なまちづくりという視点で、そこが影響してくるのかなと考えております。これをやったら人口が増えるということではないというのは、すでに皆様ご承知、ご案内のとおりではあります。そうはいつでも地方創生のKPIの検証というのはこれからもきちんとやっていく必要があると考えております。

簡単にご説明いたしました。これまでの取組について、また地方創生の新たな視点について皆様方からご意見を伺えたらと思います。

○古賀座長

ただいまの説明に関しましてご意見ありますでしょうか。

○徳田オブザーバー

先ほどお話があったように、全般的に第1期の地方創生の取組は総花的であったんだろうと思います。第2期に向けて、国は、東京一極集中を是正できないから「関係人口」という言葉で取り繕っていると、マスコミ的な立場で言えばそれに過ぎないのかなというのが現状です。ない財源を獲得するための方策・方便としてポーズをとって、取って来ようというのがこの会の目的であるとするならば、先ほどおっしゃったとおり選択と集中しかないのかなと。選択と集中でこの地域の持っているポテンシャルは何かというと、海と山の接近したこの環境、JR・港等々と人材。つまり持っているものを活用するしかないのかなと。この地域が他の地域と比べて優位性を持っている財産を内外に発信することが、ふるさと教育にも繋がるでしょうし、この圏域の持続可能な開発目標につながるのではないかと思います。もう人口減少は避けられない話ですから、これを成長させようという発想はやめて、減っている中でいかにサービスを継続・持続させられるのかということに特化していくような議論を進めた方がいいのかなという風に思います。その中で財産といえるものは大山と日本海と中海、それを俯瞰する米子城があるということですが、今進めておられる施策をさらに特化して磨いて進めていかれると特徴ある取組ができるかと思えます。それともう一点、中海宍道湖圏域の取組もされていますけれども、米子市の圏域内のリーダーシップがやや欠けてるんじゃないかという気がしております。米子市が中心地として特に西部圏域のリーダーシップを図る取組をもっと前面に押し出して欲しいなと思えます。西部圏域で民間、自治体の中心となるような取組を新たな総合計画の中で見続けていただきたいと思えますし、令和の時代の合併なんていうのもこれから起こるかもしれませんから、そういったことに向けてのリーダーシップをぜひとも発揮していただきたいと思えます。

○古賀座長

選択と集中に関するコメント、それから米子市のリーダーシップといったところへの要望というのがありましたけれども、これにつきまして米子市さんからありますでしょうか。

○伊澤副市長

選択と集中というのは絶対に必要だと冒頭の挨拶で申し上げましたが、地域の実情に合った、具体的に何をどういう事を求めているのかということでございます。行政の目的としてもそうではありますが、地域あるいは民間事業者の皆様方にお示ししていく。そして一緒になって取り組んでいくということが必要であろうと思っております。掻い摘んでお話ししますが、米子市はすでに、行政の基本方針としてあらゆる行政課題・地域課題に民間あるいは地域の住民、団体、様々な力を頂いて一緒になってやっという、これを市政の基本方針におこうという考えを表明しておりますし、今具体的なやり方として民間の皆様とどういう風にして力を合わせるができるかという仕組みづくりも考えているところであります。実際に具体例を挙げますと、大山ブランド会さんでありますとか、鳥取大

学医学部と連携した永江地区でのフレイル対策、その他にも民間企業、団体の皆様と行政がこれまで以上に近づいて、一緒になってそれぞれの力を地域課題に発揮していくという取組を既に始めております。これを様々な、そして全ての分野でやりたいということでもあります。そのために、一体我々の地域はどういう特性を持ち、どういう課題を持ち、将来に向けて何を求めて行くのか、これを明らかにする必要があります。こうしたビジョンを皆で共有しないとベクトルが同じ方向を向かないということだと思います。

それからリーダーシップの話は全くおっしゃる通りだと思っております、大変耳が痛い話ではありますが、これも徐々にと言いますか急速に取組を始めております。当然、それぞれの分野でということになります、具体例を申し上げますと、観光も当然米子市だけの観光というのはありえないわけでありまして、大山1300年祭、これも大きな成果をレガシーということから、従来の観光体制を広域化するということで、大山日野川流域観光促進協議会という西部全体を包含した広域観光の推進体制、このリーダーを米子市長が務めるという新しい体制を4月から始めておりますし、先程来ご指摘をいただいておりますがインバウンド、これもそういったものをベースにしながら、正直少し取組が遅れてきた部分がございますけれども、当然境港市さんですとか大山、日野郡も含めて力を合わせて外国からお客様をおもてなしする、あるいは過ごして楽しい大山山麓圏域こういったものをいかに作っていくかということに取組を加速して行こうということでもあります。もちろんまだまだ足りない部分も沢山ございますので、しっかりお力を頂きたいと思っておりますし、米子の街だけでも、米子の回廊構想、これは日本海新聞さんにもお力をいただいておりますけれども、米子の街歩きを想像しておると、ないものを作るのではなくあるものをしっかり使い倒そうとそういうご指摘もいただいております。その核になるのは当然米子城でありますし、それから米子港・中海の利活用といったところ、それから当然皆生温泉、それから皆生温泉の先の視点である弓ヶ浜半島をまるごとどのように使っていくのか、県の方でお力をいただいたサイクリングロード、これが来年度、皆生まで全通する予定ということでもあります。これが非常に大きな資源でございますので、これをしっかり境港・米子から大山まで使い倒していくと、そういったことにチャレンジしたいと思います。引き続きお力添えをお願いします。

○山根副座長

ちょっと質問をさせてください。資料2の3ページ、皆生温泉の外国人宿泊客数がございますが、実は家族連れの皆さんは駅前のホテルに結構泊まっていられるというふう聞いております。居酒屋がたくさん駅前にはありまして、夕方・夜にグループでぞろぞろといらっしゃって、日本人かなと思うとほとんど中国語だったりします。そういう意味で正しくKPIを設定する時には、米子駅前のホテル旅館組合さんからこういう数字がないのかなというご質問が一点でございます。もう一つ数字にこだわってなんですけれども、資料3の8ページ、50番、高校新卒者の就業定着促進というのがありまして、ここが講演会参加者数となっておりますが、講演会参加者数を数字に出したところで、一番肝になる数字は何人の高校生が地元就職したかということで、ここはそういう数値を掴んで見える化しなければいけないかなというところ、数字に対しての質問が二つでございます。

あとは先ほど副市長さんから力強いお話をいただきました。それぞれの機関が地元に着を持って一生懸命、それもネットワークを持って行ってやっていくことに尽きるんだらうと思います。ただそこはいろんな主体がありますので、餅は餅屋のところはぜひリーダーシップをとって、コーディネート能力よろしく、関係機関で頑張っていくということに尽きるんだらうと。関係機関の私たち会議所もそうですけれども、リーダーとして引っ張っていく人材、これがネットワークを通じていく中で、顔と顔が見える関係で心を寄せ合って皆でわいわい議論して、一緒にやっという姿勢が地方創生の肝だと私は思っております。そういう意味で行政、県あるいは市町村の特に幹部、もう少し言うなら首長さんが本当に大事な肝かと思っておりますので、先ほどの副市長さんのお話を頼もしく、力強くお聞きした次第でございます。それと人材の育成については関係機関それぞれの持分の能力でもって、皆が人任せではなくてリーダーシップをとって、関係機関を集めてコーディネートしていく。そのためには心と心が通うような関係づくり、端的に言いますとそういったところが大事なんだらうと思った次第です。

○鶴籠観光課長

観光課の方からインバウンドの関係についてお答えさせていただきます。こちら皆生温泉の外国人宿泊客数として出ておりますけれども、ご指摘のありましたのが、駅前のいわゆるビジネスホテルの宿泊者数について統計を取っていないのかという質問だったかと思っております。米子のホテル旅館組合さんの方をお願いをしております統計を取っているところではございます。ただ任意の調査でございますので、入湯税と違って、確実な数字というのは申し上げにくいんですけれども、そのまま申し上げますと平成30年の駅前と皆生両方足した数字が50,094名です。これはアンケート調査にきちんとお答えいただいたという実測値ですので、補正をかけるとさらに上がってまいります。推計値につきましては私どもの内部資料として使わせて頂いておりますので、ここでは公表を差し控えさせていただきたいと思っておりますけれども、実測値では5万を超えていると。県の調査等々によりますと、鳥取県内に約19万人のインバウンドがお越しいただいておりますので、我々の西部圏域の方で7万人ぐらいは泊まっておられるんじゃないかというところがございますので、かなり我々の推計値に近い数字にはなっております。参考までに申し上げますと、インバウンド戦略についてまだまだ取組が欠けていたというところがございます。それにつきまして、まずは今年度、消費額の大きいところをターゲットに、先ほど申しました日野郡を含めた9市町村でどういった手が打てるかという研究を始めようというところがございます。

○雑賀経済戦略課長

経済戦略課でございます。資料3、8ページの高校新卒者の就業・定着の促進というところで、KPIの目標が日本政策金融公庫さんの取り組んでおられます、米子高校と米子松陰高校での起業に関するワークショップの参加者数でございます。高校新卒者の地元の就職者数については100%就職されたということをお聞きしておりますが、詳しい話は赤澤所長様の方にお聞きできたらと思っております。

○八幡総合政策部長

観光については、推計値である為に出していないというところでもございましたが、駅前もかなりの影響があるということですので、次期戦略についてそのあたりも検討して参りたいと思います。それから高校新卒者の方ですけれども、おそらく市がやれることはこれだということで、こういう設定がされていると思います。ただこのあたりは鳥取県さんと一緒になって、共通のK P I でもいいのかなと、先ほどご指摘を受けたから思うわけでありまして、前回は初めてだったものですからこういう設定をしましたけれども、例えば公共職業安定所さんとか鳥取県さんと共通の目的にさせていただいて、その中で市が何をやるのかというところで、これから協議をさせていただきたいと思います。ご指摘をありがとうございました。

○赤澤委員

そういたしますと、この春高等学校を卒業された生徒さんの就職状況をご紹介させていただきます。私どもの集計の数字といたしますのが、生徒さんが学校であったりハローワークの方での紹介を希望されてということでの就職の数字の把握になりまして、公務員を希望される方、もしくは縁故で就職をされたいという方の数字は除いてあるところなんです。鳥取県全体で就職された方が1,153名。その内、県内での就職が917名ということで、県内の就職率が79.5%ということになっております。市町村ごとの集計はございませんので、西部地区ということでご紹介させていただきますと、548名の方が就職をしておられる。そのうち県内で就職された方が414名ということで、県内での就職率が75.5%です。鳥取県全体の県内就職率より低いように見えますけれども、この西部地域というのが先程来出ておりますが中海圏域であったりという広い地域での就職、自宅から通える範囲というのが東部地域と比較すると非常に広いということもあって、例えば隣の安来市に大きな製造業企業さんがございますので、そちらに就職される方も非常に多くいらっしゃる。その方は県外の統計の方に入ってきますので、県内割合より低いように見えますが、実際には自宅から通勤できる範囲に就職しておられる方も考えれば実際には数字が上がるんだろと思うております。この春は21年ぶりだったと思いますが、100%就職内定が決まったということもあってご紹介をさせていただきます。

○古賀座長

山根委員さんのおっしゃるとおり、この活動が実際に高校新卒者の地元就職に寄与しているかというところだと思いますので、実際にこれをする前と後で赤澤委員さんよりご紹介のあった率が上がっているのかどうか、そういったところの分析が必要だと思います。それはされてないというところでもありますので、その辺りはもう少し精密な評価をして頂きたいと思います。

○佐貫委員

資料3の11ページ65番ですけれど進捗状況Aということ。交通政策の方向性及び具体的施策を検討しますということで、結果的に具体的に検討しました。今年度中には成

案を取りまとめますということになっておりますが、米子市の公共交通ビジョンについて私どもはこの中で見せていただきましたでしょうか。

○八幡総合政策部長

交通ビジョンについてはお示ししていないと思います。これにつきましては9月議会で出していきたいと思っておりますので、また次回にそういう声がありましたら、この場でお出ししていきたいと思っております。

○佐貫委員

というのが、地方創生の中で企業の安定というのは当然ですし、いわゆる公共交通の利便性が非常に今後の米子市さんにとってポイントだと思いますので、このところはきちんと私どもも見てみたいということと、交通政策検討チームで検討された内容ですが、いわゆる高齢者の方、障がい者の方、学生の方そういった意見も反映されて作られたのか、あるいは職員の検討チームで作られたのか、その点について伺いたいです。

○八幡総合政策部長

交通政策検討チームですが、これは基本的には職員で作ったものでして、ただ当然ビジョンにつきましては、今度、8月だったかと思いますが、地域交通の関係者に集まっていた会談がございまして。そこで障がい者の方の意見も含めて様々な意見を頂いた上で出させていただくということでございます。

○入江委員

先ほど副市長さんからおっしゃっていただいたことをさらに推し進めていただきたいと思っておりますし、米子市の魅力である観光であったり、医療に関する強みについて、ぜひ次の政策の中でどんどん進めていただきたいと思っております。途中座長さんが、I o Tのことをおっしゃっていたんですけれども、企業さんの働き方とか離職対策になるのかもしれませんが、働く職場の質の向上が必要なのかなと思ったりしているところです。先般、市内の高校の校長先生と話をしております、ほぼ皆さん県内に就職されました、すごいですね、いいですねという話をする中で、でも一方で離職率の問題があって、働き方や職場に違和感があったりとかあるのかなと思っておりますし、我々が高校を出た頃感覚と今高校を出て働いている子たちの感覚が大きく違っている。職場の働き方みたいなのが、「我慢しなさい」で通用しない環境を既に知ってしまっている、その中で「我慢しなさい」と言っている環境がそもそもアンマッチなのかなという気がします。やはり地方の企業ではありませんけれども、本社機能の移転という話がありましたが、日本に通用する本社機能を地元の企業さんにも作っていくというのが、そういう企業を支える視点、特にI o Tみたいなものをどんどん入れていって、企業の質を上げていく、働きやすくしていく、カッコいい仕事ができるようにしていく、そういう観点の支援が今、地方の企業に必要なんじゃないかと感じているところです。銀行としてもI o Tの分野であったり、そういった部分についてはご融資を含めて支援をしているんですけれども、まだまだI o T化していけるとこ

ろは沢山あるのかなと思います。そもそも地方創生で人口を増やしましょうというところからスタートしておりますけれども、人口が増えていく中で、働くところの質を上げていくというところをやっていないと、定着して行かないのかなということを感じているところです。是非よろしくお願ひしたいと思います。

○八幡総合政策部長

まさに2020年から新しい地方創生の取組が始まりますけれども、今言われましたIoTの関係、結果的には生産性の向上をいかに図っていくかということに尽きるんですよということが、まさに書いてあるということです。そしてsociety5.0についてですけれども、5Gをはじめとして、想像を絶するような超スマート社会になっていくのかなという風に考えておまして、その波には遅れてはいけないという風に認識しております。私どもとしましても全市的にではないんですけれども、すでに本市におましてはRPA、標準的業務についてはすべてAIでやっていくような取組の研究段階に入っております。ですからこの第2期の地方創生においては、その辺り、まだ具体的にはまだドローンですとかいう程度でしょうけど、これは2、3年経ったら、車の自動運転をはじめとした様々なものが出てくるんじゃないかなと思っておりますので、そこについては情報をキャッチしていくということで、その波に遅れないようにしていかなければならないと考えているところです。

○古賀座長

私たち鳥取大学でもAIの医療分野での活用というのが結構進んでおまして、医療に対して破壊的イノベーションと言われる所が進んでいるところです。特にお医者さんが必要なくなる部分が出てきて、診断に関するところはAIの診断率がかなり上がっていると。90%を超える数字がAIで出ておまして、そうなってくると、お医者さんの診断に頼っていいのかという問題が出てきているところですね。私たち、大学の中でもAIの教育が必要だろうと。AIというものに対するリテラシーが、この先大学を生きていく上では非常に不可欠であるということで、AIの活用というのがこれから進んでいこうと。特に国の様々な事業についてもAIというのがキーワードになってきております。そういった意味では、この米子市においてもAIの活用ができる環境整備も必要だろうと思うんですね。例えばそのAIに必要なビッグデータをいかにして確保するか。それに耐えるデータの収集の仕方、といった課題もあるんじゃないかと思っておりますので、ぜひそちらにつきましても今後ご検討いただければ、AIを中心事業としているようなIT企業の進出ということも夢ではないかなという風に思いますので是非よろしくお願ひいたします。

○中西委員

資料3の進捗状況(案)の中でかなり評価をさせて頂いているのが、37番の弓浜地域における農業基盤整備・荒廃農地対策の推進です。本当に米子市は県も含めてよく大きな課題に着手していただいたということで、感謝を申し上げる次第であります。こういった成果が38番にもありますように、荒廃地、特に白ネギ等の産地なんですけれども、少し減っ

て成果があったかなと感じております。進捗がC評価ということで、かなり大きな目標の中で、少しかけ離れているところがあったと思っていますけれども、効果的なものがありますので、今後の進捗について引き続き取組をお願いしたいという風に感じております。それ5ページの32番ですけれども、農業の担い手、認定農業者とか新規就農者、親元就農者など担い手の育成確保の問題ですけれども、27年度から29年度まで順調だったのが、30年にかなり減少しているような統計になっているんですけれども、実際私も農業協同組合の役員として見させていただいてますが、かなり多くの担い手がいらっしゃって、増えているんじゃないかなという風に思ったんですが、この減少の要因をどういう内容だったのかお聞かせ願いたいと思います。

○中久喜農林水産推進局長

弓ヶ浜地域の農業基盤整備についてお褒めの言葉を頂戴しましてありがとうございます。これは地元の農業者の方が中心となって委員会を立ち上げて臨まれるので、それに県や市やJAさんが協力して取り組むということでございます。5月9日に準備委員会が設立いたしましたので、今年度と来年度、事業計画を立てるということになっております。また荒廃農地の面積についてですけれども、減っているというお言葉をいただきながら、評価はCということでございまして、米子市は全般的に129haの荒廃農地がございまして、そのうち3分の2は弓ヶ浜地域が占めております。それで米子市としましては毎年20ha（うち弓ヶ浜地区が10ha）の減少を目標としてやっておりますので、評価としてはCということでございます。最後に多様な担い手の確保についてですけれども、なぜ減少しているかということについてはこちらの方で把握がまだできておりませんので、JAさんや鳥取県さんと連携いたしまして、地域の分会なども通じて就農希望者の方を募っているんですけれども、事実として29年度と比較して20経営体ほど減少しておるということで、まだ検証の経過で把握しておりませんが、今後お答えしたいと思います。

○森本委員

米子に、この4月から住んでおまして、大変良い所だと感じているところではあるんですけれども、あまり知られてないところが多いのかなという印象が大きいです。せっかくですので、住みやすさランキングで1位になったり、この前東洋経済さんが出した「住みよさランキング」でもかなり上位だったと思います。そういったところを発信するために、どうするかということをお考えいただければなという風に感じております。例えば医療が大変充実している都市ということでもありますし、学会とか会議とかもかなりあるように伺っておりますので、例えば医療都市とかそういう大きな命題を出して全国に発信していくとかということですね。あと米子市は医師もたくさんいらっしゃるということなんですが、周辺の町村に行くとやっぱり医師不足ということもあるようでございます。そういったところは大きな地域での連携ということも図れるのかなというのがあります。

○八幡総合政策部長

伊木市長が就任された時、今ご提案いただいた件について、やはりもっと情報発信すべきであるということで、昨年、組織機構の改正をいたしまして、組織の中にシティプロモーション推進室を設置いたしまして、情報発信によりやく力を入れてきたところでございます。これにつきましてははまだ足りない、いくらやっても十分だということはないと思いますので、ぜひ皆様方と一緒に「米子っていいところだよ」 という情報発信にこれからも努めていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

○澤田委員

商工会ですけれども、いま西部7商工会で平成29年度から大山時間というプロジェクトを掲げておりまして、それは企業の特徴だったり商品だったりサービスだったりというものを米子日吉津商工会だけではなくて西部で、広域で、面で捉えてやっていった方が、県外・海外から見たら注目を浴びやすいのではないかという思いのもと、広域で取り組んでおります。その取組にも米子市さんにご支援いただいております。その中でやはり県民性なのか地域性なのか、PRというのは自分でも下手だなと思ひて、もっと特徴を伝えられたらなと思ひておりますので、同じくお願ひしたいということと、今年度、中小企業・小規模事業者振興条例というのも考へていただひていて、その中でもこういった先ほどからのいろんな施策なり方向性を踏まえながら、事業者のための施策というのを一緒に作っていったらと思ひております。

○八幡総合政策部長

最後になります、皆さんからいろいろご意見を頂きたかったですけれども、時間がございますしてなかなか限られた時間でございますので、よろしかったらですけれども、個別に私の方がそれぞれお邪魔させて頂いて、委員さん方から次期戦略についてのご意見を頂戴したいなというふうに思ひておりますので、またその際にはご協力の程よろしくお願ひしたいと思ひます。

○古賀座長

今後のスケジュールについて事務局からお願ひします

○倉本室長 スケジュールについて説明

○古賀座長

その他の件につきまして、事務局からご紹介があるようですのでお願ひします。

○長谷川総合政策課長 米子ヨネギーズクラブについて説明

○古賀座長

全体を通して何か委員の皆様からありますでしょうか。

(なし)

それでは、これをもって閉会とさせていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

12時00分閉会